

## 30周年記念に寄せて 歯科医学教育を取り巻く環境の変化

副学部長 伴 清 治

紀要編集委員会から歯学部創立30周年を記念して原稿依頼を受けた時に、最初に連想したのが、この30年間に生じた歯科医学教育を取り巻く環境の厳しい変化です。私自身が歯学部教育に関わってほぼ27年になりますが、その変化を現実として体験しています。変化の最大の原因は、歯科医師過剰問題の解決策として、歯科医師国家試験合格率の抑制が安易に施策されていることです。

表に示すように、鹿児島大学歯学部1回生および2回生が受験した第75回および第77回歯科医師国家試験は年に2回実施されていましたが、3回生が受験した第79回以降は年1回になっています。問題数も8回生(第84回)からは260問から280問、19回生(第95回)から330問、23回生(第99回)から365問に増えていきます。また15回生(第91回)から科目別出題が廃止され、以降は領域別出題になっています。そして21回生(第97回)以降の合格率は全国平均で75%以下、国立大の平均で90%以下の低い値になってきています。今後さらに下げられ、2025年には全国平均で50%程度になるとさえいわれています。その他、受験回数制限、歯科医師定年制なども検討されています。

しかし、歯科医師の過剰をもたらしたのは、国の施策として新設・増設された歯学部(歯科大)の定員増にあります。団塊の世代の歯科医療が社会問題化した60年当時、歯科医の養成機関は「歯科の旧六」と称された旧制歯科医学専門学校6校(東京医科歯科大、日本歯科大、東京歯科大、日大、大阪歯科大、九州歯科大)に大阪大を加えた7校しかありませんでした。厚生省(当時)は、65年までに広島、東北、新潟の各国立大学を含む6校に歯学部を設置し、さらに67年に北海道大学および九州大学、76年に徳島大学、78年に鹿児島大学、79年に岡山大学および長崎大学の各国立大学を含む16校に歯学部が設置されました。その結果、

国立11校、公立1校、私立17校の計29大学に拡大され、定員は国公立約500人、私立約2,500人の合計約3千人に達しました。

歯科医師数を抑制するため厚生労働省は歯科医師国家試験合格率を低く抑えようとしませんが、文部科学省は国立大学(正式には国立大学法人)歯学部の高い合格率を要求してきます。税金を財源として運営されている国立大学は、納税者に対する義務として、また効率的な教育を実践している証として高い国家試験合格率が求められるわけです。ところが、表に示したように、何も特別な対策を実施しなくとも国立大学歯学部が高い合格率を獲得できる時代ではなくなっています。24回生からは臨床実習実施前に全国共通の能力評価試験(CBTおよびOSCE)を学生は受験するようになりました。さらに、研修医も義務化となり、全国共通マッチングにより研修医の登録数が公表されます。大学評価機構による歯科大学の評価にはこのような全国共通の指標が使われ、この客観評価により運営交付金が決まるとされるため、これらの公表値を意識せざるを得なくなっています。マスコミおよび政府により大学間の競争があおられているわけです。歯学部として、歯科医師国家試験を意識した教育システムを考慮せざるを得ません。したがって、歯学部は歯科医師国家試験予備校の様相を呈してきています。それに伴い学生気質も変化してきています。

歯科医学をとおして人類の福祉に貢献しようとする「良き歯科医療人」を育成することが、本来の歯学部であるはずですが、特に国立大学歯学部卒業生は歯科医療現場だけでなく、教育・研究・行政分野においても歯科界に貢献できる人材として期待されてきました。しかし、その本来あるべき歯科医学教育が困難になりつつあります。学生も試験に出る内容だけの授業を望む傾向にあります。大学は学術研究だけを孤高に追い

求めるのではなく、時代のニーズに対応した教育・研究が求められるようになってきました。歯学部の場合は特に、その傾向が強く、繰り返しになります。歯科医師過剰という現実には教育現場が圧迫されています。当鹿児島大学歯学部は最後に設置された国立大学歯学部グループに属するわけですが、多方面にわたる変革により、この難局を乗り切ろうと努力をしています。

入学者選抜方法もこの数年で大きく変わりました。カリキュラムも大幅に変更し、2年次前期から専門科目が履修されるようになり、統合系科目が新設されました。臨床実習開始時期も半年前倒しし、5年生前期から開始されるようになります。時代に対応しつつも、国立大学歯学部として本来あるべき歯科医学教育に取り組んでいきたいと考えています。

鹿児島大学歯学部卒業生の歯科医師国家試験合格率の推移

回生	年度	回数	新卒者			既卒者			総数			平均合格率		国立11校中の順位
			受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)	受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)	受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)	国立(%)	全国(%)	
1	S59	75	55	55	100	-	-	-	55	55	100	98.5	92.7	1*
2	S60	77	50	47	94.0	-	-	-	50	47	94.0	98.1	95.2	9*
3	S61	79	82	78	95.1	-	-	-	82	78	95.1	97.8	92.4	9
4	S62	80	59	57	96.6	4	4	100	63	61	96.8	97.5	91.6	8
5	S63	81	63	56	88.9	2	2	100	65	58	89.2	94.9	84.4	11
6	H 1	82	90	88	97.8	7	7	100	97	95	97.9	98.5	92.9	8
7	H 2	83	88	82	93.2	2	2	100	90	84	93.3	95.1	84.8	7
8	H 3	84	88	83	94.3	6	6	100	94	89	94.7	97.1	90.6	9
9	H 4	85	69	67	97.1	6	4	66.7	75	71	94.7	94.4	83.5	3
10	H 5	86	79	72	91.1	5	5	100	84	77	91.7	96.4	90.5	10
11	H 6	87	68	58	85.3	8	8	100	76	66	86.8	95.8	88.6	11
12	H 7	88	49	45	91.8	11	11	100	60	56	93.3	95.8	87.7	9
13	H 8	89	58	57	98.3	4	3	75	62	60	96.8	96.9	90.0	6
14	H 9	90	60	54	90.0	2	1	50	62	55	88.7	93.4	87.9	9
15	H10	91	65	57	87.7	7	7	100	72	64	88.9	94.4	88.0	11
16	H11	92	50	44	88.0	9	8	88.9	59	52	88.1	92.9	83.6	9
17	H12	93	44	37	89.1	7	4	63.3	51	41	80.4	87.1	69.7	10
18	H13	94	57	57	100	10	9	90.0	67	66	98.5	97.4	90.7	4
19	H14	95	57	47	82.5	1	1	100	58	48	82.8	92.0	83.3	11
20	H15	96	63	62	98.4	10	7	70.0	73	69	94.5	96.8	90.6	11
21	H16	97	43	33	76.7	5	0	0	48	33	68.8	87.4	74.2	11
22	H17	98	49	39	79.6	15	9	60.0	64	48	75.0	86.3	74.6	11
23	H18	99	61	61	100	14	9	64.3	75	70	93.3	90.8	80.8	5
24	H19	100	71	64	90.1	5	3	60.0	76	67	88.2	87.3	74.2	6
25	H20	101	63	56	88.9	9	5	55.6	72	61	84.7	81.7	68.9	4

\* : 9校中の順位